



## 新年のご挨拶

一般社団法人 日本自動車会議所

会長 内山田 竹志

年頭に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

旧年中は格別のご高配を賜り、心から御礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、私どもは自動車関係諸税の抜本改正に向けた勝負の年と位置付け、関係21団体で構成する「自動車税制改革フォーラム」を軸に、一丸となって活動を展開してまいりました。その結果、与党税制改正大綱では、悲願である「自動車税の恒久引き下げ」を実現することができました。税の創設以来70年近くが経過して、初めて開けることのできた風穴であり、ユーザー負担を「真水」で軽減した大きな成果であると評価しております。また、消費税引き上げに合わせて導入される環境性能割につきましては、需要平準化対策として軽減措置が実施されます。取りまとめを強力にリードいただきました政府・与党の皆さま、そして全国7,800万ユーザーの声を全都道府県の知事に届ける活動などにご尽力いただきました自動車関係団体の皆さまに、深く感謝申し上げます。

自動車産業がこれからも日本経済をリードし、地域経済や雇用に貢献していくためには、今大綱に記された中長期的な自動車関係諸税の課税のあり方の議論もにらみながら、一層のユーザーの負担軽減・簡素化の実現を目指して、引き続き、抜本改正に向けた取り組みを進めてまいりたいと考えております。

今年は5月に新しい天皇陛下のご即位とともに元号も改まり、新たな時代が始まります。その節目の年に東京モーターショーが開催され、来年は東京オリンピック・パラリンピック、そして2025年には大阪万博というビッグイベントが続きます。「100年に一度の大変革期」を迎えている自動車産業にとりましては、世界に向けてクルマの新たな魅力と可能性を発信する絶好のチャンスであります。この時代の転換期をとらえ、私どもは大きなビジョンを描きつつも、目の前の課題を一つ一つ着実に解決してまいります。

当会議所は、2017～2019年を「施策の強化・見直し3カ年」と位置付けており、近年、自動車ユーザーの負担軽減、会員ニーズの高い委員会の設置・運営、情報発信の強化などに関する面で鋭意、取り組みを進めてまいりましたが、今年は、この2年間の実績を踏まえた集大成の年であります。時代が大きく動く中、自動車関連産業の総合団体という機能を活かして、会議所は何を期待され、何を果たすべきか、将来をしっかりと見据えて、さらにチャレンジしてまいりたい、そのような思いを新たにしております。

われわれがこれまで役割を果たすことができたのも、会員をはじめ関係先の皆さまのご理解、ご協力があればこそと改めてお礼申し上げます。今年も倍旧のご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、この1年の皆さまのますますのご繁栄とご活躍をお祈り申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。